

としよ館だより

第3号

2021年7月17日

夏休み中の図書館について



図書研修部

夏休み特別貸し出しのお知らせ

夏休みに向け、特別貸し出しをしています。

返却期間：8月30日（月）2学期始業式まで

貸出冊数：無制限！！

長い夏休み。朝読書ではなかなか

読めない長編小説などに、挑戦してみませんか。



夏休みの開館日のお知らせ

夏休み中の、図書館の開館は、以下のとおりです。

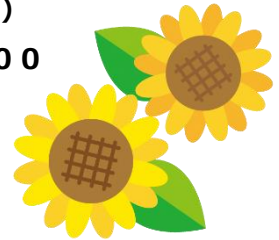
開館日：7月26日（月）～8月2日（月）
（7月30日（金）は午後休館）

8月16日（月）～27日（金）
（土日は除く）

開館時間：8：30～17：00

読書に、学習に、涼みに、

どうぞご利用ください。



図書の紹介(エッセイ)

「赤めだか(立川談春・扶桑社)」を紹介しします。落語家の立川談春さんが高校中退して立川流家元・立川談志師匠に弟子入りし、真打に昇進するまでを描いたエッセイです。

出版当時話題となり、TBS でドラマ化もされました。高校を辞めて弟子入りしたいと申し出た談春少年に向かって、談志師匠はこう言っている。「君の今持っている情熱は尊いもんなんだ。大人はよく考えろと云うだろうが自分の人生を決断する、それも十七才でだ。これは立派だ。断ることは簡単だが、俺もその想いを持って小さんに入門した。小さんは引き受けてくれた。感謝している。経験者だからよくわかるが、君に落語家をあきらめなさいと俺には云えんのだ。…」この場面、大きな目標をもった若者と向かい合い心配する大人の構図、この経験は誰もが心当たりがあるのではないのでしょうか。私も自分の経験を重ねて談春の不安、談志師匠の苦悩が伝わってきました。本の中盤、入門を果たして前座から二ツ目(この上が真打)へ昇進を果たした場面を引用します。「二十二才までに二ツ目になるという誓いはどうにか間に合ったなと思ったら、涙がでた。(ここで改行)恥ずかしいが母親の顔が思い浮かんできた。」この場面、緊張した昇進試験のあとに見せる人間らしい弱さを表現する「スミ感」がとてもよいと感じました。とくに「涙」の前の句読点、それから改行して続く「恥ずかしいが…」の間(ま)をとった演出はちょっとわざとらしいかもしれませんが、私はそういう感受性が少し弱いのでそのほうが心に響いてきます。この本は、知り合いがおもしろい本だからと貸してくれたので読み、おもしろかったから文庫本が出版されたのを機会に買って読み、ハードカバーの本が重版されたからまた買って読みました。図書館にもありますので、ぜひおすすめします。



紹介者：西 政輝